戦争体験記

高橋民夫

私は現在、八十歳。第二次世界大戦を経験致しました。

皆さん、戦争は最終的に人と人の殺し合いです。平和な時に殺人がおきますと大変な事になります。戦争になりますと一番困る事は食料、衣類です。国内で働き盛りの男子は軍隊へ、女子は挺身隊日本赤十字社従軍看護婦として戦地に行きます。家族とも別れ、親友とも別れ、命の保障はありません。沖縄県では女学生も従軍し、ひめゆりの塔は従軍された若き乙女の墓です。戦争は大変悲しい出来事です。沖縄県の子どもたちは船で父母のもとをはなれ日本本土に逃れる途中、アメリカ軍により轟沈（ごうちん）され、多くの命は海のも草となつた悲しい出来事もありました。

大阪で焼けた区を紹介いたします。天王寺区、浪速区、西区、南区、東区、大正区、港区、八十％位焼け、見るも無残な街になりました。私たちは焼けあとの整理ですが、何分初めての出来事ですので、ごく一部位しか出来ず煙りや火に巻かれて多くの方々が死にました。この所はその後も爆撃され二回死体の収容と整理、主に道路ですがこれまた被害が大きいので充分な奉仕が出来ず皆ただぼう然として（この場所は大正築港です）言葉が出ないぐらい無残な被害を被りました。三月十三日夜明け頃から翌朝までB－29という爆撃機約二百機位来ました。当時上空一万メートル位から焼夷弾という爆発物を落します。これは無数です。今のプラスチック材と思いますが長さ三十センチメートルに経六角で十センチメートル位の口から花火の様な火を吹き、当時の家屋は木造で先づ障子、唐紙に火が移り簡単に燃えます。

B－29はサイパンから飛んで来るとの事です。話は後になりましたが警防団という団体が出来、平素は当務と言つて受持地区各町会内を、昼夜通しで巡回し警察の仕事をします。戦争は六月頃には負け戦になりました。毎日という位日本のどこか